

平成 24 年度
宜野湾市平和学習派遣事業

派遣報告書

平成 24 年 8 月 7 日～8 月 10 日
長崎県長崎市



沖縄県宜野湾市



市長あいさつ



宜野湾市長 佐喜眞 淳

平和学習派遣事業は平和行政の推進を目的に、平成17年度より開始され、今年度で7回目の実施となりました。市内各小中学校から選出された児童生徒を被爆地長崎へこれまでに述べ56名を派遣し、毎年8月9日に行われる「平和祈念式典」及びその前日から2日間に渡り開催される「青少年ピースフォーラム」に参加し、全国の青少年と共に、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでいます。

先の大戦で経験した、沖縄での地上戦や広島・長崎を一瞬にして廃墟と化した原子爆弾投下。このような惨劇が二度とこの地球上で繰り返されることのないよう、過去の歴史をしっかりと若い世代へ伝えていく、そしてその中で平和の大切さを改めて実感させ、「戦争も核兵器もない、平和で希望ある世界」を目指す、という本事業の役割はよいよ重要となっています。

さて、政府には北朝鮮をめぐる深刻な事態の打開に挑み、「核兵器禁止条約（NWC）」の締結等、被爆国としてのリーダーシップを求めたいと考えます。本市におきましても、昭和60年に反核・軍縮平和都市宣言を行い、平和市長会議と連携し、核兵器の非人道性を訴え、全世界に向けて核兵器の廃絶を求め続けています。今日では、全世界から平和市長会議に賛同し加盟する都市は年々増え続けており、その数世界156ヶ国・地域、5,551都市にも及んでおり、核兵器を廃絶し、平和な世界を希求する人々の思いが世界各地で高まっています。

現在、日本国土のわずか0.6%の小さな島沖縄に、在日米軍施設の約75%が存在しています。市域の約33%が米軍基地に占められ、なかでも市の真ん中に居座る普天間基地は市域の約25%を占め、ドーナツ状の街を形作っています。この特異な地形は、市の発展を大きく阻み、そして何より市民の生命・財産を脅かし続けています。

また、米軍基地がある限り、沖縄は戦争に関わり続けることになるため、新たな基地建設に反対し、平和で豊かな沖縄の実現に結びつけて行きたいと存じます。

戦後67年が過ぎ、戦争体験者が少なくなっている今日、戦争を経験した方々は基本的な教訓を次世代に伝える重要な役割を担っておられます。私たちには悲惨な経験を風化させることなく、正しく継承していく義務があります。派遣生徒が沖縄戦そして長崎の被爆体験を学習することにより、命がいかに尊くかけがえのないものなのかを学び、これからも平和を強く意識し成長していくことを願います。

本市としましても、沖縄戦及び原子爆弾によりお亡くなりになられた人々を追悼し、再び悲惨な戦争が起こらないよう、平和事業をとおして平和の大切さ、命の尊さを次の世代へ語り継いでいく所存です。

最後に、この事業にご参加いただきました生徒やその保護者の方々へ、本事業への多大なるご理解ご協力に対し御礼を申し上げますとともに、市民の皆様には平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望ある世界」が実現されることを祈念してごあいさつと致します。



目次



	ページ
実施概要	3
団員名簿	4
事前学習	5
派遣日程	6-7
被爆遺構巡り・平和祈念式典	8-9
青少年ピースフォーラム	10-13
長崎平和宣言（長崎市長 田上 富久）	14-15
平和への誓い（被爆者代表 中島 正徳）	16
その他 資料	17
派遣生徒報告	
■ 普天間中学校	3年 本村 恵玲奈 18
■ 普天間中学校	3年 大濱 瑠那 19
■ 真志喜中学校	3年 安次嶺 セーラ 20
■ 真志喜中学校	3年 金城 杏果 21
■ 嘉数中学校	3年 前原 梨李 22
■ 嘉数中学校	3年 玉那覇 智香 23
■ 宜野湾中学校	3年 大城 美優 24
■ 宜野湾中学校	2年 西里 空 25
実施要綱	26-27
平和都市宣言（宜野湾市）	28

実施概要

1. 背景と目的

戦後 67 年が経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が少なくなっている今日、戦争を知らない世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

特に本市においては、沖縄戦当時嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

この過去の事実をしっかりと捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

本市では市内生徒（中学生）を対象に、沖縄戦を学びながら、去る大戦での被爆地長崎を訪問する「宜野湾市平和学習派遣事業」を実施します。毎年 8 月 9 日に開催される「平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」へ参加し、全国の青少年と交流をする中から命の尊さや平和の大切さを学ぶことによりこれからの平和な社会を築くことを目的とします。

2. 実施経過

- 平成 24 年 4 月 12 日
宜野湾市長より宜野湾市教育委員会へ事業協力依頼
- 平成 24 年 4 月 16 日
小中学校長会議において事業実施説明
- 平成 24 年 7 月 26 日
派遣生徒・保護者を対象に事業実施説明会
- 平成 24 年 7 月 30 日
派遣生徒を対象に事前学習会
- 平成 24 年 8 月 7 日～10 日
長崎市で平和学習実施
- 平成 24 年 9 月 7 日
市長へ平和学習派遣報告




 団員名簿（平成24年度宜野湾市平和学習派遣事業）


学校名	氏名	学年
普天間中学校	<small>もとむら えれな</small> 本村 恵玲奈	3年
普天間中学校	<small>おおはま るな</small> 大濱 瑠那	3年
真志喜中学校	<small>あしみね</small> 安次嶺 セーラ	3年
真志喜中学校	<small>きんじょう きょうか</small> 金城 杏果	3年
嘉数中学校	<small>まえはら りり</small> 前原 梨李	3年
嘉数中学校	<small>たまな はともか</small> 玉那覇 智香	3年
宜野湾中学校	<small>おおしろ みゆ</small> 大城 美優	3年
宜野湾中学校	<small>にしごと はるか</small> 西里 空	2年
普天間中学校 教諭	<small>よし ひろふみ</small> 由 博文	引率
宜野湾市役所 企画政策課	<small>さくもと かいちろう</small> 佐久本 嘉一郎	事務局



事前学習

長崎への派遣に先立ち、今から67年前、第2次世界大戦において唯一の地上戦が繰り広げられた沖縄戦について学びました。特に沖縄本島中南部（読谷・嘉手納・宜野湾）で行われたアメリカ軍の上陸作戦時には、激戦地となった嘉数高台での死闘について学習しました。また、2004年8月に起こった沖縄国際大学への米軍ヘリコプター墜落・炎上事故の記録映像も見ました。

期 日：平成24年7月30日（月）14:00～17:00
場 所：宜野湾市役所及び嘉数高台公園



宜野湾市は、1985年（昭和60年）3月18日に反核・軍縮平和都市宣言を行いました。平和を希求し、核兵器廃絶や非核三原則の遵守を求めます。

第2次世界大戦時に使用されていた軍専用の陣地壕入口。弾薬輸送や指令の伝達に使われました。



写真パネルを使って沖縄戦のはじまり、戦争の悲惨な状況を知りました。また、長崎派遣に向けての事前学習として、パネルにて原爆の実相を学びました。

沖縄国際大学に米軍ヘリコプターが墜落・炎上した時のDVDを見ました。飛行場のCLEAR ZONE（利用禁止区域）には小学校や公共施設が数多くありとても危険性を感じます。




 派遣日程(平成24年度 宜野湾市平和学習派遣)


日付	時 間	日 程	食事
第1日目 8月7日 (火曜日)	7:30	那覇空港国内線 3階：ANA ツアーカウンター前集合	昼食
	9:15	那覇発 (ANA 482便にて福岡へ)	
	10:50	福岡空港到着 貸切りバスにて長崎へ(所要約3時間)	
	13:00	途中、「嬉野陶彩館」にて昼食	夕食
		貸切りバスにて長崎市内視察 (◎グラバー園、◎出島資料館、◎稲佐山ロープウェイ)	
	18:30	途中市内レストランにて夕食	
	20:30	ホテル着	

第2日目 8月8日 (水曜日)	7:00	ホテルにて朝食	朝食
	8:00	ホテル発 長崎平和公園へ	昼食
	9:00	原爆資料館見学・平和ガイドによる被爆遺構巡り (◎原爆落下中心地 ◎城山小学校 ◎平和公園 ◎山里小学校 ◎如己堂・永井隆記念館 ◎浦上天主堂)	
	12:30	昼食	
		青少年ピースフォーラム(参加型平和学習Aコース)	夕食
	13:50	ピースフォーラム参加受付(平和会館ホール)	
	14:00	被爆者体験講話・主催者あいさつ	
	15:10	参加型平和学習(～17:00)	
	18:00	夕食交流会(長崎新聞文化ホール)	
	19:30	交流会終了後、ホテルへ	
	20:00	ホテル着	



日付	時 間	日 程	食事
第3日目 8月9日 (木曜日)	7:00	ホテルにて朝食	朝食
	8:00	路面電車にて 長崎平和公園へ	
	10:40	「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」へ参列	
	12:00	昼食	昼食
	13:30	青少年ピースフォーラム(参加型平和学習Aコース) (~15:30)	
	16:00	国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 見学	
	19:00	見学後、市内レストランにて夕食	夕食
20:40	ホテル着		

第4日目 8月10日 (金曜日)	7:00	ホテルにて朝食	朝食
	7:40	ホテル発	
	8:30	長崎駅発====JRかもめ10号にて博多駅へ	
	10:17	博多駅着====地下鉄にて福岡空港へ	昼食
		福岡空港着→搭乗手続き	
	13:50	福岡発 ANA 489便にて沖縄へ	
15:25	那覇空港着		
	~全日程終了~		

市内視察

現在の美しい街、長崎を見る、歴史・文化に触れる。

◎ コース グラバー園 ⇒ 出島資料館 ⇒ 稲佐山ロープウェイ



▲大浦天主堂前にて



▲グラバー園で西洋の文化に触れる



▲出島資料館で江戸時代にタイムスリップ



▲稲佐山ロープウェイに乗り展望台へ。
長崎を一望

被爆遺構巡り

原爆資料館を見学しました。原爆によって一瞬にして変わってしまった長崎の街や人々の暮らしについて、また今なお存在する核兵器とその脅威を、資料を通して学びました。資料館内には、11時2分を指して止まった柱時計、長崎型原爆の実物大模型などがあり、皆、熱心に見入っていました。



現地平和案内人 小畑 俊夫さんを講師に招き、被爆遺構巡りを行いました。

コース：原爆落下中心地⇒城山小学校⇒平和公園⇒山里小学校⇒如己堂・永井隆記念館
⇒浦上天主堂



▲原爆によって壊れた家の瓦や溶けたガラスなどが現在も残る当時の地層



▲野田総理も式典に先立ち視察された城山小学校の被爆校舎



▲山里小の原爆資料室



▲如己堂 「己の如く隣人を愛せよ」 永井隆博士



▲重さ 50 t の鐘楼が 35m も吹き飛ばされた

長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典 参列



児童合唱 あの子

壁に残った らくがきの
おさない文字の あの子の名
呼んでひそかに 耳すます
ああ あの子が生きていたならば

被爆67周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典へ参列しました。

核兵器の廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを誓いました。



青少年ピースフォーラム

平成24年度青少年ピースフォーラム

期日：平成24年8月8日(水)～9日(木)

主催：長崎市

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する平和使節団の青少年のみなさんと長崎の青少年ピースボランティアの皆さんと一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として実施しています。

■ プログラム

日	時	内 容 <場 所>		
1 日目 8/8 (水)	14:00	開会行事 <平和会館3階ホール>		
	15:00	被爆体験講話 永野 悦子さん		
	15:10	コース別の参加型の学習により、被爆の実相を学びます。		
		A コース あの夏の日を忘れない ～67年前の長崎～ <平和会館3階ホール>	B コース 被爆建造物等のフィールドワーク ～歩いて学ぶ67年前の長崎～ <原爆資料館周辺>	
	17:00			
	18:00 19:30	交 流 会 (希望団体) <長崎新聞文化ホール>		
2 日目 8/9 (木)	午前	平和祈念式典への参列<平和公園内平和祈念像前広場> もしくは、長崎市内学校での平和集会への参加		
	13:30	コース別の参加型の学習により、平和の尊さについて考えます。		
		A コース 平和な世界をつくるために ～届けよう！平和の想いを私から～ 小・中学生対象 <平和会館3階ホール>	B コース Challenge to the future 小・中学生対象 <原爆資料館 平和学習室>	C コース 意見交換 高校生対象 <原爆資料館 会議室ほか>
15:30				

青少年ピースフォーラム（参加団体）

A コース 参加団体			
都道府県	市町村名	参加者数	引率者等
福島県	郡山市	29	5
	いわき市	34	3
千葉県	松戸市	22	3
	我孫子市	3	1
東京都	新宿区	7	10
	武蔵野市	15	2
神奈川県	藤沢市	40	8
愛知県	岩倉市	14	3
京都府	福知山市	3	2
広島県	広島市	24	3
沖縄県	那覇市	4	1
	浦添市	8	2
	北谷町	4	3
	北中城村	4	3
	中城村	3	1
	宜野湾市	8	2
合 計		222	52

B コース参加団体			
都道府県	市町村名	参加者数	引率者等
北海道	札幌市	4	2
	函館市	6	2
	旭川市	2	1
	深川市	3	1
宮城県	気仙沼市	3	1
	登米市	5	2
	美里町	12	3
茨城県	つくば市	6	3
千葉県	浦安市	16	3
	我孫子市	3	1
東京都	港区	8	3
	品川区	6	2
	板橋区	23	12
静岡県	焼津市	10	2
岐阜県	美濃加茂市	2	1
京都府	宇治田原町	4	1
大分県	豊後大野市	6	3
宮崎県	日向市	7	3
沖縄県	石垣市	2	1
合 計		128	47



青少年ピースフォーラム

フォーラム1日目 (Aコース)

■ 被爆体験講話

講師：永野 悦子さん（財団法人 長崎平和推進協会 継承部会）
被爆当時、16歳。爆心地から2.8kmの長崎大学経済学部で学徒動員作業中に被爆。
自宅は全焼し戸外にいた9歳の弟は全身大火傷により2日後に死亡。
自宅で被爆した母と13歳の妹は原爆症に苦しみ、妹は1ヶ月後に死亡。
今でも妹、弟を疎開先から呼び戻したため原爆の犠牲になった事を悔やんでいる。
原爆投下後の悲惨な状況に子ども達は身動きを止めて聞き入っていました。



永野さんからのメッセージ

- 平和な世の中にするために、まずお隣の人と仲良くし、社会に出たら、外の人と仲良くしてください。そのことが平和につながります。
- 戦争の無い平和な毎日を送れるようにしていただきたい。

グループ学習



全国の青少年を交えたグループに分かれ、青少年ピースボランティアの進行で、レクリエーションや自己紹介を行いました。

映像を見ながら原爆の恐ろしさ・核兵器の現状について学びました。

質問コーナーのあと、「平和だと思ふ時」「平和じゃないと思ふ時」をそれぞれあげ、グループごとにまとめました。

夕食交流会



長崎市が主催するフォーラム参加団体が集う夕食交流会へ参加しました。他県の青少年とも、積極的に交流を図ることができました。



青少年ピースフォーラム



フォーラム2日目 (Aコース)

長崎市平和会館で「青少年ピースフォーラム」2日目が開催されました。「平和な世界をつくるために～届けよう！平和の想いを私から～」というテーマに沿って参加型学習を行いました。



前日と同じグループで、平和を妨げている事は何か、またそれを解決するにはどうすれば良いかを考え、平和宣言文を作成し、発表しました。



国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館を訪れました。

原爆犠牲者へ心からの追悼の誠を捧げ、核兵器のない平和な世界を願いました。



「平和の原点は人の痛みがわかる心を持つこと。平和を実現するために一番大切なのは、友達がいることです。皆さんお友達をたくさんつくってください」



長崎平和宣言



人間は愚かにも戦争をくりかえしてきました。しかし、たとえ戦争であっても許されない行為があります。現在では、子どもや母親、市民、傷ついた兵士や捕虜を殺傷することは「国際人道法」で犯罪とされます。毒ガス、細菌兵器、対人地雷など人間に無差別に苦しみを与え、環境に深刻な損害を与える兵器も「非人道的兵器」として明確に禁止されています。

1945年8月9日午前11時2分、アメリカの爆撃機によって長崎に一発の原子爆弾が投下されました。人間は熱線で黒焦げになり、鉄のレールも折れ曲がるほどの爆風で体が引き裂かれました。皮膚が垂れ下がった裸の人々。頭をもがれた赤ちゃんを抱く母親。元氣そうにみえた人々も次々に死んでいきました。その年のうちに約7万4千人の方が亡くなり、約7万5千人の方が負傷しました。生き残った人々も放射線の影響で年齢を重ねるにつれて、がんなどの発病率が高くなり、被爆者の不安は今も消えることはありません。

無差別に、これほどむごく人の命を奪い、長年にわたり人を苦しめ続ける核兵器がなぜいまだに禁止されていないのでしょうか。

昨年11月、戦争の悲惨さを長く見つめてきた国際赤十字・赤新月運動が人道的な立場から「核兵器廃絶へ向かって進む」という決議を行いました。今年5月、ウィーンで開催された「核不拡散条約（NPT）再検討会議」準備委員会では、多くの国が核兵器の非人道性に言及し、16か国が「核軍縮の人道的側面に関する共同声明」を発表しました。今ようやく、核兵器を非人道的兵器に位置付けようとする声が高まりつつあります。それはこれまで被爆地が声の限り叫び続けてきたことでもあります。

しかし、現実はどうでしょうか。

世界には今も1万9千発の核兵器が存在しています。地球に住む私たちは数分で核戦争が始まるかもしれない危険性の中で生きています。広島、長崎に落とされた原子爆弾よりもはるかに凄まじい破壊力を持つ核兵器が使われた時、人類はいったいどうなるのでしょうか。

長崎を核兵器で攻撃された最後の都市にするためには、核兵器による攻撃はもちろん、開発から配備にいたるまですべてを明確に禁止しなければなりません。「核不拡散条約（NPT）」を越える新たな仕組みが求められています。そして、すでに私たちはその方法を見いだしています。

その一つが「核兵器禁止条約（NWC）」です。2008年には国連の潘基文事務総長がその必要性を訴え、2010年の「核不拡散条約（NPT）再検討会議」の最終文書でも初めて言及されました。今こそ、国際社会はその締結に向けて具体的な一步を踏み出すべきです。

「非核兵器地帯」の取り組みも現実的で具体的な方法です。すでに南半球の陸地のほとんどは非核兵器地帯になっています。今年は中東非核兵器地帯の創設に向けた会議開催の努力が続けられています。私たちはこれまでも「北東アジア非核兵器地帯」への取り組みをいくどとなく日本政府に求めてきました。政府は非核三原則の法制化とともにこうした取り組みを推進して、北朝鮮の核兵器をめぐる深刻な事態の打開に挑み、被爆国としてのリーダーシップを発揮すべきです。

今年4月、長崎大学に念願の「核兵器廃絶研究センター（RECNA）」が開設されました。「核兵器のない世界」を実現するための情報や提案を発信し、ネットワークを広げる拠点となる組織です。「RECNA」の設立を機に、私たちはより一層力強く被爆地の使命を果たしていく決意です。

核兵器のない世界を実現するためには、次世代への働きかけが重要です。明日から日本政府と国連大学が共催して「軍縮・不拡散教育グローバル・フォーラム」がここ長崎で始まります。

核兵器は他国への不信感と恐怖、そして力による支配という考えから生まれました。次の世代がそれとは逆に相互の信頼と安心感、そして共生という考えに基づいて社会をつくり動かすことができるように、長崎は平和教育と国際理解教育にも力を注いでいきます。

東京電力福島第一原子力発電所の事故は世界を震撼させました。福島で放射能の不安に脅える日々が今も続いていることに私たちは心を痛めています。長崎市民はこれからも福島に寄り添い、応援し続けます。日本政府は被災地の復興を急ぐとともに、放射能に脅かされることのない社会を再構築するための新しいエネルギー政策の目標と、そこに至る明確な具体策を示してください。原子力発電所が稼働するなかで貯め込んだ膨大な量の高レベル放射性廃棄物の処分も先送りできない課題です。国際社会はその解決に協力して取り組むべきです。

被爆者の平均年齢は77歳を超えました。政府は、今一度、被爆により苦しんでいる方たちの声に真摯に耳を傾け、援護政策のさらなる充実に努力してください。

原子爆弾により命を奪われた方々に哀悼の意を表するとともに、今後とも広島市、そして同じ思いを持つ世界の人たちと協力して核兵器廃絶に取り組んでいくことをここに宣言します。

2012年（平成24年）8月9日

長崎市長 田上 富久



平和への誓い



67年前の今日、この浦上の上空に原子爆弾が投下され、数千度の熱線、強烈な爆風、想像を絶する放射線を浴びせられ、一瞬にして市街地は廃墟と化し、無防備の市民十数万人が死傷したあの凄惨な光景が昨日のように鮮明に甦り、この胸が締め付けられる思いです。

私は当時15歳、自宅は原爆投下地点から約700メートル西の城山町にあり、当日は、3^{丁目}南の三菱電機の地下工場で軍需品の生産に従事しておりました。何の前触れもなく停電し、トンネル内が真っ暗になり、一呼吸して、「ドーン」と強烈な爆風でその場に吹き倒されました。気が付くと入口の方が騒然として外の工場、事務所に居た人達が雪崩れ込んでおり、「工場は全滅だー」と殺気立った声で叫んでいました。懐中電灯で照らすと殆どの人が負傷しており、手の施しようがありませんでした。

しばらくして、友人と2人で工場を出て城山の自宅へ向かいました。港の対岸にある県庁舎が延焼中で、工場前の海岸通りは負傷者が助けを求めて右往左往しておりました。旭町の住宅街は延焼中で通れず、山越えしようと稲佐山へ向かいました。三合目くらいに入りましたが、木は倒れ、あちこちに煙が立ち込め、陰を求めて負傷者が10人、20人とたむろしており、息絶えた子どもを抱いて項垂れている母親、遺体に寄り添って泣きじゃくる子ども、「水をくれー」と叫ぶ声、市街地を見下ろすと街は廃墟と化し、煙の中には大型鉄筋の残骸が突き出していました。淵神社に出て梁川橋まで煙の中を一気に走り、やっとの思いで抜け出しました。橋の上には人、馬の黒焦げた遺体が散乱し、遺体の中には口から内臓が飛び出している者もありました。三菱製鋼の工場はアメのように曲がり、工場の中から必死に助けを求める悲鳴が聞こえてきましたが、どうしようも出来なかったので浦上川へ降りました。川の中には焼け焦げた人など無数の負傷者が水を求めて折り重なるように倒れており、足の踏み場もないくらいで、流れている遺体もありました。上流へ急ぎましたが竹岩橋が真ん中から折れて川に落ちており、その隙間を抜けて城山の石段を登り、道に出たところ、近くの三菱製鋼の鉄屑置場の鉄屑が真っ赤に焼けて、まるで溶鉱炉のようになっておりました。これでは人間はひとたまりもないと思いました。

赤茶けた畑の中を我が家へ急ぎました。家は跡形もなく、近くに母と弟の黒焦げた遺体が並べてありました。父が大やけどを負いながらも先に帰って負傷を負った妹2人、弟1人を防空壕に寝かせていました。口も利けず、目も見えず、水も飲めず苦しさで呻くのが哀れで早く楽になればと思いました。夜になっても周囲の山々が赤々と燃えていました。散らばっている木片を集めて母と弟の遺体を火葬しました。肉親の行く方も知れず亡くなった人々のことを思えば、親、兄弟の最後を見届けることができたことで救われた思いになりました。妹2人、弟1人は5日後に息を引き取りました。

戦争がなければ、核兵器がなければこの悲劇は起こらなかった。いかなる国の核兵器も廃絶し、戦争のない平和な社会を目指して命の限り訴え続けることをお誓い申しあげ、15万余りの犠牲者の霊のご冥福をお祈りいたしますと共に、今日もなお後遺症に苦しんでおられます方々の一日も早いご快復を祈念いたしまして平和の誓いといたします。

平成24年8月9日

被爆者代表 中島 正徳

その他 資料



長崎広島派遣事業 被爆地・長崎での平和学習を報告

8月7日～10日までの4日間、市内各中学校の生徒8名が平和学習のため被爆地・長崎を訪れました。原爆資料館を見学後、ボランティアの平和案内人とともに被爆遺構を巡り、青少年ピースフォーラムでは参加した全国の青少年と交流を深め、被爆の実相や平和の尊さを学習しました。平和祈念式典に参列し、原爆犠牲者の冥福と世界恒久平和を祈りました。9月7日(金)には、宜野湾市長や保護者の方々へ学習の成果を報告しました。長崎で学んだことをより多くの人に伝え、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを願います。



学習報告会



原爆資料館にて



全国の仲間と交流



平和祈念式典会場



恒久平和の実現を誓う

市報ぎのわん(平成24年10月号)

派遣生徒報告

派遣学習を通して

普天間中学校 3年
本村 恵玲奈(もとむら えれな)



3泊4日という長い平和学習で私はたくさん学ぶ事ができました。中でも一番印象に残っている事は、平和ガイドさんの説明を受けながら原爆資料館や被爆遺構巡りをした事です。

資料館では原爆が投下される前と後の写真でその威力を実感したり、被爆者の救護活動を熱心に行った永井隆博士の生涯を知りました。案内されている途中、ガイドさんがこうおっしゃいました。「どんなに痛々しくて、目があてられないような図や写真でも、それが真実だ。しっかり目に焼きつけて、若い世代の貴方達が受け止め、今感じた思いを受け継いでほしい。」私はこの言葉にとても使命感を感じました。被爆者の高齢化が進んでいる中、この時代があったという現実、私達が受け継がなければ何もなかった事になってしまうとこの時気付いたのです。学んで感じたこの思いは、絶対忘れてはいけなと心に刻みました。

また、初めて参加したピースフォーラムでは、私と同じように平和を願う小中学生が多くいました。年齢や出身地は違っても、戦争や原爆は恐ろしいと思う気持ち、もっと平和な世界になってほしいと考える気持ちはみんな一緒なんだと感じました。

そして派遣3日目には平和式典へ参列しました。長崎へ原爆が落ちたあの日、あの時間と同じ状況で捧げる黙祷は、私をとても不思議な気持ちにさせました。合図と同時に放たれた鳥達のはばたくのを見て、平和を築くのは私達だと改めて実感させられました。

最後に、この派遣を通してたくさんの出会いがありました。その出会いの中で平和についての意見を出し合い、考えを深めていけたのはとても貴重な体験でした。また、派遣へ行ける幸せな環境へも感謝し、学んだ事をこれからに生かすピースメーカーの一人として、できる事から始めようと思います。

派遣生徒報告

平和学習を通して



普天間中学校 3年
大濱 瑠那(おおはま るな)

私は、3泊4日の平和学習で、いろいろな事を学んできました。

まず、原爆資料館や被爆遺構巡りをして、戦争の恐ろしさや昔ここに日本は戦場だったという事をあらためて実感しました。戦争後の写真や原爆による被害を実際にこの目で見て、とても衝撃を受けました。次に、被爆した永野悦子さんの体験講話を聞きました。その話の内容はとても私が口にできるようなものではありませんでした。この講話からは、悦子さんの苦しみや悲しみ、恐怖を感じる事ができ、戦争は罪の無い人達までまきこみ、大切な人を失う恐ろしいものなんだとあらためて感じました。次に、青少年ピースフォーラムで、いろいろな人達と交流をしました。この交流会で平和の尊さを学びながら、いろいろな人達と交流を深める事ができました。最初はうまくできるか不安だったけど、いろいろな人と仲良く交流を深めながら、平和について学べたのでとても良かったです。そして、平和祈念式典に参加しました。とても多くの人達が参列しに来ていて、とてもビックリしました。私はここに来て、慰霊できてとても良かったと思いました。

私は、この3泊4日という期間で学んだ事を、これからいろいろな人に伝えて行き、いつか戦争の無い世界をつくりあげる事ができたらいいなと思います。

派遣生徒報告

長崎派遣を通して学んだこと

真志喜中学校 3年
安次嶺 セーラ(あしみね セーら)



「平和。」それはあなたにとってどんなことですか。「幸せ。」あなたは普段どんなことに幸せを感じますか。

長崎派遣 1 日目、私達、宜野湾市から代表の 8 人は 9 時頃に、期待と不安を抱きながら長崎へと第一歩を踏み出しました。11 時頃には福岡空港に到着し、それからバスに乗って 3 時間程かけて長崎へ行きました。それから観光などをし、派遣 1 日目は終了しました。2 日目は初めての路面電車を体験し、被爆遺構巡りをしました。そこでは、戦争中の様子や、戦争がどれ程恐ろしいものなのか、改めて深く知りました。見学後、午後は、青少年ピースフォーラムへ参加しました。ピースフォーラムには全国各地から参加者が訪れ 300 人以上にもなりました。ピースフォーラム 1 日目は、班に分かれ交流を深め、自己紹介などをしました。それから意見交換や話し合いをして、ピースフォーラム 1 日目は終了しました。その後、長崎新聞文化ホールにて夕食交流会が行われました。そこでもまた、班に分かれて交流を深めました。

長崎派遣 3 日目は、いよいよ貴重な体験となりました、平和祈念式典へ参加しました。全国各地から多くの人々が訪れ、野田総理大臣も訪れていました。式典では、原爆がどれだけの威力を持つのか、そして何より、原爆がどれだけ多くの犠牲者を出したのか、改めて思い知らされました。そして、平和祈念式典に参加した後は、ピースフォーラム最終日となりました。平和と感ずること、また、逆に平和と感ずないことを話し合い、改めて、平和について理解しました。そして、ピースフォーラムの閉会式では、ピースフォーラムを代表して表彰も受け、普段ではできないような貴重な体験ができ、また、一歩、成長できたなど実感しました。

私は、この長崎派遣を通して、多くのことを学びました。平和であることの重要さ、また、今、生きていることの素晴らしさ。原爆で多くの人々が犠牲となりました。でも、その中にも奇跡的に生き残った方々もいます、でも、今尚、後遺症と戦って、必死に生きようと頑張っています。なので、私たちは、何不自由なく生活できる。生きるって素晴らしいんだ。毎日が普通に過ごせる。そんなことに、感謝しなければなりません。また、こんなでき事がもう二度と起こらないように、私達が次の世代へ、また次の世代へと、より平和な未来を築いていかなければならないのではないのでしょうか。

派遣生徒報告

平和であること



真志喜中学校 3年

金城 杏果(きんじょう きょうか)

平和。それは世界中の誰もが願っていることです。しかし、実際に平和な世界を目指すというのは、簡単なことではありません。今も世界のどこかで戦争などが起きています。私は「せめて戦争だけでもない世の中にしていきたい。命の尊さをもっと伝えていきたい。」という思いがあったので、宜野湾市平和学習派遣事業に参加しました。

私達宜野湾市平和学習派遣の生徒達は、8月の7・8・9・10日の3泊4日、長崎県で平和学習をすることになりました。平和学習1日目。朝早く私達は那覇空港にいました。少しの不安と期待を胸に私は、沖縄を旅立ちました。長崎に到着し、長崎の観光などをしました。1945年の8月9日、長崎に原子爆弾が降下されました。今では、本当に原爆が降下された所とは思えないほど、キレイな所でした。長崎の観光地をまわって、1日目は終了しました。2日目、私達平和学習派遣の生徒達は、「青少年ピースフォーラム」に参加しました。青少年ピースフォーラムでは全国各地から小・中・高・大学生の方々が集まって、被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めたりするものでした。長崎の青少年ピースボランティアのみなさんと一緒に学びました。初めは、被爆体験者の方の講話を聞きました。原爆の落とされた日は、雲ひとつない良い天気だったそうです。原爆が降下されるとは、誰も思っていなかったと思います。私は、話を聞いているだけでとても胸が苦しくなりました。本当に私達の住んでいるこの日本で起こった出来事とは思えませんでした。しかし、この事実を受け入れなければなりません。二度とこんな事が起きないように。その後は、コースごとに分かれて平和学習をして2日目は終了しました。3日目は、平和祈念式典に参加しました。平和式典にはたくさんの方々が集まっていて、私は少しドキドキしました。緊張の面持ちで式典が始まりました。式では、長崎平和宣言や児童合唱があったりし、原爆の降下された11時2分には会場の人全員で黙とうをしました。式典が終わり私達はピースフォーラム2日目に参加しました。この日は、平和と思う時とそうでないと思う時をグループの人達で書き出してみました。みんな色々な考えなどを持っていて、すごく勉強にもなりました。4日目、私達は無事沖縄に帰ってくることができました。

私は、この平和学習派遣事業に参加して、平和という事がどれだけ素晴らしいことなのか改めて実感することが出来ました。もう二度とこのような事が起こらないように、私達もできる事から始めようと思います。そのためには、たくさんの方が戦争はいけない事だと知る必要があります。なので私は、長崎で学んだ事や、私の地元沖縄での事も伝えていかなければならないと思いました。「戦争」という言葉がいつか無くなるその日まで・・・。

派遣生徒報告

平和学習

嘉数中学校 3年
前原 梨李(まえはら りり)



私は、8月7日から8月10日の4日間の間、平和大使として、長崎へ行きました。

初日、那覇空港から出発しました。その日は、貸切バスで長崎を観光しました。出島資料館、グラバー園、ロープウェイへ行きました。出島では、天秤などの面白い昔の道具がたくさんありました。グラバー園では、旧ウォーカー住宅、旧オルト住宅、旧自由亭などがありました。最後のロープウェイは、少し暗くなってから行きました。初めてだったので、とても楽しかったです。頂上では、とてもきれいな夜景が見れて、感動しました。

2日目は、色々な所へ歩いて行きました。平和公園、山里小学校、如己堂、永井隆記念館、浦上天主堂そして、原爆落下中心地碑など勉強になりました。歩いて、少し疲れましたけど戦争の悲惨さを深く知ることが出来てよかったです。

午後は、青少年ピースフォーラムに参加させて頂きました。被爆者の体験講話などもあり、戦争で、どれだけ大変だったか知ることが出来ました。他の県から来た人達とも交流会をして、楽しみながら勉強することが出来ました。

3日目は、長崎平和公園へ「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」に出席しました。ハトが出てくるのが1番、印象に残りました。それからもう一度、ピースフォーラムへ行ってから国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館を見学しました。何か所かに水があって、これなら亡くなった人も水がいつでも飲めていいだろうなと思いました。

3泊4日は、本当にあっという間で、こんなにも、戦争について考えたのは初めてだなと思いました。

そして、たくさんの人と交流して思った事は、戦争は二度としてはいけない、これからも平和を守っていくことなど住む場所は違っても、考えや思いは一緒だということです。この体験が出来て、本当に良かったです。

派遣生徒報告

今、私達にできること



嘉数中学校 3年
玉那覇 智香(たまなは ともか)

私は、宜野湾市平和学習派遣事業に参加し、8月7日から10日までの4日間長崎へ行きました。

私はこの事業に参加し、改めて戦争の恐ろしさ、悲惨さを学びました。

長崎に着いた時、67年前に原爆が落とされたとは思えないほど、とても綺麗な街なみで驚きました。初日は長崎の街を観光しました。「本当にここに原爆が落ちたのだろうか」私の頭の中はこのことでいっぱいでした。

しかし2日目の被爆遺構巡りで、原爆が落とされたことを実感しました。当時のまま保管されていた建物やものが原爆の恐ろしさを物語っていました。たくさんの人の尊い命がいきなり失われたのに、アメリカはただ威力を確かめたかっただけという事を聞き、本当に驚きました。

2日目と3日目に行われた、青少年ピースフォーラムでは、他県の人達と意見交換をしたり、交流会をしたりしました。いろいろな人の意見が聞けてよかったです。被爆された方のお話は耳をふさぎたくなるような事ばかりでした。

3日目に参列した、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典で思ったことは、もう二度と戦争はおこってほしくないということです。黙とうでは犠牲者の方々のご冥福を祈りました。

なぜ戦争がいけないのか。私は人間が人間じゃなくなるからだと思います。しかし戦争は今でも世界のどこかで起きています。世界の戦争がなくなるように今私達にできることは、自分の周りの人を大切にすることだと思います。そうすると戦争だけでなく、いじめもなくなり平和な世界になるとと思います。

今回学んだことを、私が大人になって子や孫、世代を超えて、語り続けていくことも、私達にできることだと思います。

派遣生徒報告

平和学習を通して・・・

宜野湾中学校 3年
大城 美優(おおしろ みゆ)



私は、8月7日から10日まで宜野湾市平和学習派遣団として長崎に行きました。

1日目は、出島資料館・稲佐山ロープウェイ・グラバー園をまわり、現在の長崎を視察しました。昔の様子から現在のとてもキレイな夜景まで見る事が出来ました。

2日目から本格的な平和学習に入りました。原爆資料館を見学し、改めて原爆の怖さ、恐ろしさを知りました。その後、平和ガイドの案内で、爆心地に最も近い城山小学校や山里小学校、平和公園などをまわりました。当時の写真や防空壕跡など、私の想像を超えるものでした。午後はピースフォーラムに参加しました。最初に、被爆者の体験講話を聞きました。初めて聞く被爆者の体験談は、写真や映像では感じられないものがあり、とても良い経験をしたと思います。体験談を聞いた後、それぞれの班に分かれて活動を行いました。その班別交流会では、いろんな都道府県の人と交流することが出来ました。その後、夕食交流会もあり、また違う人と交流することが出来ました。なかなか体験出来るものではないなと思いました。

3日目は平和祈念式典に参加しました。長崎市長からの平和宣言、被爆者代表からの平和への誓いなどを聞きました。また、野田総理も挨拶をしていました。式典の後には、2日目のピースフォーラムの続きをしました。そして、それぞれの班で平和宣言文を書きました。私の班は、ちゃんと出来てない部分もありました。だけど最終的には発表をすることが出来たので良かったです。

私は、この4日間を通して、いろんな人の平和のあり方を知ることが出来ました。「ケンカをしない、いろんな人と仲良くする、戦争を二度としない、自分の出来る小さなことをやる」と言ったものです。

私は、最近ニュースでよく見る「いじめ問題」が小さな戦争だと思います。私の周りには、起こらないように、起こさないようにします。

今回、宜野湾市平和学習派遣団の一員として参加することが出来て良かったです。

派遣生徒報告

宜野湾市平和学習派遣事業を通して



宜野湾中学校 2年
西里 空(にしざと はるか)

今回、私たちは宜野湾市代表の平和大使として3泊4日で長崎に平和学習をしに行きました。

自分だけ2年生で、1日目は緊張して発言したりできませんでしたが、2日目くらいからは他中の先輩方とたくさんしゃべって、仲良くなれたので良かったです。

1日目は長崎のいろいろな所を観光しました。

出島でタイムスリップした気分を味わったり、めちゃくちゃきれいな夜景を見たりして貴重な体験でした。

2日目・3日目は、原爆資料館や被爆した小学校などを見てまわりました。

8月9日11時2分、重さ4.5トンというとても大きな原爆が落とされ、その証拠に原爆資料館に展示されていた柱時計は11時2分を指したまま止まっていて、その時計も爆風の影響で変形していて、異常な程の被害だったのだとわかり、心が痛くなりました。

午後は、両日とも長崎市平和会館で青少年ピースフォーラムで全国の学生と交流をもちました。

北海道から沖縄まで、たくさんの方が集まっていて、私は千葉の子と友達になれました。

フォーラムは、幸せ・幸せではないと思う事を出し合い、幸せでないのを解決するにはどうしたらいいのか・・・?という感じで、最初は緊張して発言できなかったけど、周りとの仲良くなっていくうちに発言できる様になりました。

今回、この平和学習に参加させてもらって、原爆の恐ろしさと平和であることの大切さ、命の尊さをあらためて学ぶ事ができました。

そのために、戦争は何があっても絶対にしてはいけないと思いました。

平和な世界を実現させるために、お互い相手を思いやって、67年前に戦争で亡くなったすべての人に追悼の気持ちを忘れず、いつまでも楽しい世の中を目指していきたいです。



実施要綱



宜野湾市平和学習派遣事業実施要綱

(目的)

第 1 条 この要綱は、市の平和行政の推進を目的とする宜野湾市平和市民啓発事業の実施により市内生徒を原爆被爆地に派遣し、平和に関する学習、交流等を通して平和の尊さを学び平和思想に対する啓発を高めるために、市内生徒のなかから派遣される生徒(以下「派遣生徒」という。)を選抜すると共に、その役割及び平和学習派遣事業実施等に関する基本的な事項を定めることを目的とする。

(派遣生徒の選抜)

第 2 条 派遣生徒は、思想、信条、宗教の如何を問わず広く平和を愛する市内生徒のなかから以下の要領で選抜する。

- (1) 派遣生徒は市内各中学校区から 2 名選抜し、定数は 8 名以内とする。
- (2) 派遣生徒の対象学年は中学校全学年とし、選抜方法については各学校長に一任する。
- (3) 派遣生徒は各中学校長名での推薦書(様式第 1 号)及び保護者の派遣同意書(様式第 2 号)を市長に提出し審査後、市長が派遣を決定する。
- (4) 派遣が決定した後に、派遣生徒本人からの辞退申し出があった場合はさらに同一中学校区より補充し、決定する。

(役割)

第 3 条 派遣生徒は、日本国憲法の理念を大切にし、戦争のない社会、ひとりひとりの生命を限りなく大切に作る人間尊重の社会を創り、それを発展させるための平和交流及び日常的に生活の中で平和について積極的な活動を行うことを役割とする。

(平和学習への派遣)

第 4 条 派遣生徒は、市の計画する以下の内容の平和学習派遣事業に参加し、平和への認識を深める研修・交流活動を行うものとする。

- (1) 平和学習派遣は 8 月に実施し、派遣先は広島市、長崎市のどちらかを市が決定する。
- (2) 派遣期間は原則として 4 日以内とする。
- (3) 派遣生徒は市の計画する事前学習に積極的に参加するものとする。



実施要綱



(費用負担)

第5条 平和学習派遣に係る費用負担については以下のとおりとする。

- (1) 派遣に関する費用(実費)については、旅費・交通費、宿泊費、食卓費、旅行保険費用については市の負担とする。但し、事前学習の交通費については派遣生徒の負担とする。
- (2) 平和学習に関する費用(実費)については、参加料、講師料、施設入館料については市の負担とする。
- (3) 事前研修及び派遣期間中に派遣生徒の責任により生じた経費及び疾病などによる経費は派遣生徒の負担とする。

(随行員)

第6条 派遣期間中においては、下記のいずれかの職員が派遣生徒を随行するものとする。

- (1) 教育委員会職員
- (2) 中学校教員
- (3) 事務局職員

(派遣後の報告書の提出)

第7条 派遣生徒は、派遣事業終了後、以下の内容で報告書を提出しなければならない。

- (1) 派遣生徒は派遣事業終了後1ヶ月以内に市長へ報告書を提出する。
- (2) 前号で定める報告書は、400字詰め原稿用紙2枚以上とする。

(事務局)

第8条 本事業の事務局を平和行政担当課に置く。

附 則 (平成17年6月8日決裁)

附 則 (平成24年4月12日決裁)

この要綱は決裁の日から施行する。

世界平和を希求する 反核軍縮平和宣言都市

宜野湾市

平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

1985年（昭和60年）3月18日
宜野湾市

資料提供 長崎市 被爆継承課
日本非核宣言自治体協議会

発行 宜野湾市
企画政策課 平和交流係
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1
TEL 098-893-4411 FAX 098-892-7022
HP <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>